

平成26年度 戸田市政策研究所研究テーマ

研究テーマ名	研究概要	事業名
「新しいまち」に向けた創造性の検証	<p>これからの新しいまちづくりについて、一つの方向性に「創造性」が挙げられる。人口が減少していく中、将来の税収確保を考えている中小郊外型都市は、軒並み住民の定住化と移住化を視野に入れている。こうした中、都市間競争が激化しており、中規模郊外型都市がどのように差別化を図っていくべきなのか、早い時期から土台を固め戸田市の将来像を明確にイメージしていく必要がある。</p> <p>本研究では、戸田市の将来を見据えて、どこにでもある中規模郊外都市ではなく、戸田市のイメージを都市における経済成長の鍵となる推進力を向上させ、創造性豊かなまちを醸成していくことはできないか明らかにしていく。</p> <p>なお本研究は、法政大学地域研究センターとの共同研究として、従来の都市の機能や資源の指標から、これからの都市に向けて必要な創造性等について2年間かけて研究する。</p>	政策研究 (2年間)
子どもの居場所等に関する研究～児童から生徒への転換期を中心として～	<p>都市化や時代の流れを反映して、子どもの遊び場や居場所に関する考え方が変化してきた。加えて、地域コミュニティの希薄化や家族構成の変化等から、学校、地域及び行政の連携が難しくなり、授業以外の場で子どもたちが安心して遊ぶことのできる場所の確保が課題として浮かび上がってきている。</p> <p>本研究では、各世代の子どもの遊び場や居場所に関する認識の違いを把握するため、アンケート調査を実施し、子どもが屋外で遊ぶことの重要性を念頭に置いたうえで、戸田市の実情に即した子どもの居場所とは何かを明らかにしていく。</p> <p>なお本研究は、目白大学社会学部地域社会学科との共同研究とする。</p>	政策企画
少子高齢社会への戦略	<p>2009年度及び2010年度「急速な高齢化が戸田市へもたらす影響に関する研究」を行い、2035年の超高齢社会に備え戸田市は何を為すべきかを研究した。しかし、日々変化する社会情勢を鑑みると、将来的なシミュレーションを再度見直す必要がある。</p> <p>そこで本研究では、まず、超高齢社会を勝ち抜くために、戸田市の最大の課題と言える「健康寿命延伸策」について研究を先行させ、同時に未着手の少子化と高齢化の双方について、将来推計等の基礎データをとりまとめていく。</p> <p>また本研究は、分野横断的であることから、「まちづくり戦略会議」の研究テーマとすることで、2年間で結論を導出することを目指す。今年度は、まちづくり戦略会議と政策研究所が連携することで、担当課職員で構成するワーキングチーム(WT)を組織し、基礎調査を進める。</p>	政策研究 (2年間)

※政策企画：施策化・事業化を前提とした研究。原則として1年間で結論を導出する。

※政策研究：必ずしも施策化・事業化を前提としない研究。複数年で結論を導出する。

※政策支援：担当部署と共同で調査研究を実施。研究所の政策支援機能を活かす。

※PT：プロジェクトチーム。研究目的に対する調査、分析、結論付けまでの一連を主体的に実施し、テーマに対する研究成果を導出する。

※WT：ワーキングチーム。研究目的に対する基礎的な調査研究を実施し、決定機関へ結果を提出する。